

news paper

#7

RACE ARCHIVE
Rd.7 MOBILITY
RESORT MOTEGI

INTERVIEW

Sena SAKAGUCHI #39

39号車 ドライバー 阪口 晴南

今もっている
ものの全て

www.inging.co.jp

TODAY'S RACE Rd.7
SUZUKA CIRCUIT
10.28 SAT/29 SUN

FINAL ATTACK RIDE



SUPER FORMULA 2023
P.MU/CERUMO INGING RACE REPORT

©INGING MOTOR SPORT Supported by WUCA Co., Ltd.

RACE ARCHIVE Rd.7 FSW 決勝 8月20日(日) 天候:曇り 路面:ドライ

8月19日(土)の公式予選では2台がそろってQ1突破を果たしたものの、Q2に向けて大きくタイムを上げてきたライバルに対し、11番手、12番手というポジションで予選を終えたP.MU/CERUMO・INGING。決勝レースでは、順位を上げて結果を残したいことはもちろん、今シーズン決勝レースペースに課題を抱えていた坪井翔、上位進出のためにさらなる速さを求めたい阪口晴南と、それぞれに抱えた課題を解決する糸口を見出したいところ。良いかたちで決勝レースを戦うべく、P.MU/CERUMO・INGINGは午前9時25分から行われたフリー走行に臨んだ。

レーススタート直後いきなりの赤旗中断に 午前中のフリー走行の後も酷暑が続いたモビリティリゾートもてぎ。TCR ジャパンやピットウォークを経て、2&4レースのうち二輪のメインレース、JSB1000の決勝レースが行われたが、このレースでアクシデントによる赤旗中断があったことから、スーパーフォーミュラの第7戦の決勝は当初予定から15分遅れで行われた。もてぎの周辺には強い雨雲が迎えたスタートでは、ストールする車両が2台発生。さらにトップ争いのなかで2番手に上がっていた#15 リアム・ローソンがスピン。後続の3台と激しくクラッシュを喫してしまった。その直後につけていたのが阪口と坪井だったが、阪口は瞬間的にアクシデントを回避。坪井も避けることができ、幸い2台ともに接触に巻き込まれることはなかったが、車両にはクラッシュ車両のパーツが当たるなどわずかなダメージも。幸い走行に支障はなく、直後アクシデントの処理、ドライバーの救出のため、レースは赤旗中断となった。

レース再開後、阪口、坪井のバトル勃発も 幸い大きな怪我を負ったドライバーは分にセーフティカーなく、レースは午後3時50ランで再開。この時点で阪口は8番手、坪井は10番手につけていた。3周目にリスタートを迎えると、坪井は#4 小高一斗をオーバーテイク。阪口の背後につけ、6周目には阪口が前、坪井がうしろでチームメイト同士のバトルが勃発した。

坪井、まさかのマシントラブル しかしそのバトルは思わぬかたちで終わってしまう。7周目、V字コーナーへ走っていた坪井だったが、ギヤが3速から上がらない状態となってしまった。坪井はピットと交信しながら状態を伝えたが、状況の打開は難しく、ピットインした後、坪井は車両を下りることになってしまった。最終大会の鈴鹿の前に良い手ごたえを得てもてぎを締めくくりたいところだったが、悔しい一戦となってしまった。一方の阪口は、坪井が後方からいなくなった後、10周目のピットウインドオープンとともにタイヤ交換を行う。ここでチームはしっかりと作業をこなし阪口を送り出すと、同じタイミングでピットインしていた#65 佐藤蓮が、翌周にピットに入っていた#6 太田格之進とピットレーンで接触。阪口は労せずしてポジションを上げることが成功した。

レース中盤、阪口の前に入ってくるのは誰だ レースは中盤を迎え、少しづつピットストップを行った車両とそうではない車両と分かれていくことになったが、阪口はピットインを行った"裏"の3番手に浮上。一時、V字コーナー周辺で雨の報告がありウエット宣言が出されたが、幸いレースはドライコンディションのまま進んでいった。23周を過ぎるころになると、レース後半にピットインを遅らせていた上位陣が続々とタイヤを換えていく。ここで阪口の前に誰が入ってくるかが焦点となったが、序盤から上位を走っていた陣営は阪口の前。29周目には最後までピットインを遅らせ、後方からハイペースで追いつけていた#37 宮田莉朋が阪口の前でピットアウト。阪口は一時は#37 宮田をかかわしたものの、ニュータイヤを履いた#37 宮田のペースが速く、31周目に阪口をパスしていった。

さらにもう一度 フリー走行では今までにないチャレンジを行いました。その内容をウォームアップで合わせ、決勝レースのペースは今シーズンでいちばん良いフィーリングがありました。赤旗中断後にリスタートを迎えてからは、前にもどろんどろん追いつくことができました。ピットインのタイミングも阪口選手とすらすら前にいける感触もあったのですが、ギヤトラブルが起きてしまいました。まだ原因は分かりませんが、もしあのまま走っていれば阪口選手と争っていたでしょうし、ペースによってはさらに上にいけた感触もあったので悔しいです。それに今回得ていた決勝レースのペースの良さが最後まで続くのかをしっかりと確認したかっただけに残念ですね。

この上ない結果を残すことができた レースではスタート時間が遅くなったり、アクシデントもあって気温も下がっていきましたが、クルマはロングランの状況ではかなり乗りやすかったです。ただ、その乗りやすさのなかでライバルたちはさらに速かったので、そこは少し驚きましたね。僕たちよりもさらに抜けたところで走っているということなので、全体的なパフォーマンスを上げるために、次戦に向けてもう一度しっかり考えなければと感じました。ただ、僕たちが今もっているものがすべて当たって、周囲の接触などもあったとはいえ、戦略も素晴らしかったですし、今回のレースウィークのなかではこの上ない結果を残すことができたと思います。ポイントを獲得したことには満足しています。

着実に2台が本来いるべき位置に戻ってきている スタート直後のアクシデントによるパーツ飛散で、2台ともわずかにダメージがあったのですが、レースを続けられたので良かったです。ただ、その後坪井選手はペースも良さそうだったのですが、ギヤのトラブルが発生してしまいました。結果的にはリタイアとなりましたが、走り続けていれば上位進出が見えていただけに残念です。阪口選手は最後までしぶとく走ってくれましたし、今季最上位なので、結果が残ったことは良かったですね。ペースは厳しそうでしたが、そんななかでドライバーが頑張ってくれました。着実に2台が本来いるべき位置に戻ってきているので、最終戦の鈴鹿では2台が揃って上位で争えるように、しっかりと準備をしていきたいと思っています。



FINAL ATTACK RIDE 阪口、今季最上位を獲得

阪口はファイナルラップまで #37 宮田を追ったが、後方からは #4 小高も接近。しかし阪口は最後までポジションを譲ることはなく、5位でフィニッシュ。予選日までは苦しい展開ではあったが、チームと阪口の努力の末に、望外の今季最上位を獲得することになった。坪井にとっては悔しい週末、そして阪口にとっては最終戦に繋がる週末となった酷暑のもてぎ。10月の鈴鹿で、最後はきっちり笑って終わりたい。P.MU/CERUMO・INGINGはインターバルの間力を蓄え、最終戦に臨む。

INTERVIEW #7

Sho Tsuboi #38 38号車 ドライバー 坪井 翔

さらにもう一度

この上ない結果を残すことができた

Sena SAKAGUCHI #39 39号車ドライバー 阪口 晴南

この上ない結果を残すことができた

着実に2台が本来いるべき位置に戻ってきている

Results 38 坪井翔 予選 11位 決勝 リタイア 39 阪口晴南 予選 12位 決勝 5位

アプリをDL後、ドライバーを登録して応援しよう!

38 Sho Tsuboi 坪井翔

39 Sena Sakaguchi 阪口晴南

スマホで登録

PCで登録 <https://sfgo.jp/>